



台湾の重い思い出

〜駆け足・台湾5日間①〜

九州とほぼ同じ広さを建国する。以後「中国の台湾。福岡から首都・華民国」を国家と承台北まで飛行機で2時間、認する国は減少し、国間半。日本の最西端、連に加盟しているのも「中華人民共和国」。1つの中国が進み、国際的に孤立傾向にあるのが今の台湾の現状である。

昭和20年の日本敗戦までの50年間は日本が統治した。その後は、中国の蒋介石が率いる「中華民国」が統治する。台湾を訪れたのは今回で3回目。最初に訪れたのは昭和59年に台中中部の第3の都市、台中でカトリック教会の国際会議が開催された時である。

一方、中国共産党は残る中国全土を掌握し「中華人民共和国」が日本人だとわかると

「私の日本名は山田です」「私は木村といいます」と言う。日本が戦争中に統治していたことはもちろん知っていたが、台湾原住民が日本兵としてニューギニアなどで戦ったということは全く知らなかった。帰国後、調べると、このような台湾原住民の日本兵は「高砂義勇隊」と呼ばれ、フィリピン、ニューギニアなどの山岳戦で日本兵として勇敢に戦ったとある。台湾出身の元日本兵に話を聞いた。本兵に戦って、府は昭和63年に国債で



高砂族の踊り

本兵の数 戦死者に200万円の は8万 見舞金を支給している。高砂 義勇軍を 加えると 湾原住民出身の神父 その数は 20万人を 超え、こ のうち戦 死した人 は3万人 のことだ。 神父親が 入浴したあ と私が入浴す る。何と浴槽は空っ ば。山岳地方では小 さな風呂桶に入浴し、その後、湯を入れ替える。今も山岳地方でその 習慣が続いているかど うかは定かではない。 今回、台中のホテルの 浴槽が写真のように桶 (おけ) だったから、 今もその習慣が続いて いるのかもしれない。 さて、この会議で台 湾を50年もの長きにわ たり日本が統治してい たことを実感した語。 高砂族の信徒と一緒になつてのミサの時、現 地に交わって「神様」や「聖 霊」の概念に 一致したのが 50年という長 い統治の間に 現地語に同化 したのだから。



山岳民族のミサ(昭和59年)



台中のホテルの風呂桶

使われた。「イ エス・キリス ト」という存 在が、日本の 「神様」や「聖 霊」の概念に 一致したのが 50年という長 い統治の間に 現地語に同化 したのだから。